

第1回適応自治体フォーラム (コデザインワークショップ)の開催概要

- 日時：8月31日（水）13～17時20分
- 場所：法政大学 市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー
- 参加者：文科省，環境省，自治体行政，SI-CAT技術開発機関，SI-CAT社会実装機関他 計76名
- 主な成果
 - 環境省も含めた気候変動適応の関係者が一堂に会して，環境省の適応策支援事業，同事業の適用例としての川崎市と、独自に政策形成を行っている徳島県，モデル自治体の岐阜県それぞれの政策過程や課題等の情報共有ができた
 - 徳島県では条例と計画の両方を同時かつ非常に迅速に進めており，その背景には国の計画策定と議会から後押しが大きい
 - 先進自治体では，潜在的適応策(適応につながる現行施策)の抽出が終わり，これから追加的適応策の検討が進む
 - 適応計画全般，防災，農業の5つの分科会を，各ファシリテーターが「自治体の適応計画立案に役立つ技術開発とは」をテーマに運営し，技術開発機関と行政とが直接的にニーズとシーズについて意見交換して，その結果を模造紙にまとめて参加者全員で共有，テキストマイニング技法を用いたリアルタイムでの議論の可視化を試行した
 - シーズとニーズの相互理解が進んだものの時間不足もあり，技術開発機関，自治体行政双方より再度の開催要望あり

